

# オーストラリアバオブブ生育記録 ～導入から5年目の開花記録～

堀川大輔

広島市植物公園栽培記録 第41号掲載の「オーストラリアバオブブ生育記録～定植から2年が経って・開花記録～」では、バオブブの初開花記録を記載した(堀川ほか 2020)。2017年10月3日の定植から5年が過ぎ、開花数が昨シーズン(2021年夏)に比べて非常に少なかったため、その開花記録を中心に5年目の生育記録について記録する。

## 落葉から萌芽

昨シーズンと同様、2022年1月中旬にすべての葉が落葉した。それから4か月弱経った5月上旬から少しずつ萌芽を確認することができた。昨シーズンも同時期に同程度の萌芽を確認している。

萌芽を確認したことから、5月上旬から灌水を始め、気温の上昇に伴い、6月からは徐々に灌水量や灌水頻度を増やし、7月末時点では昨年同時期と同程度の灌水量や灌水頻度(週1回で約200L/回)だった。

## 出蕾～開花

表に示した通り、1輪目の出蕾日は7月25日で、8月12日に開花した。続けて、8月13日、9月2日、4日、14日、16日、21日と1輪ずつ、計7輪が開花した。ただし、7輪目(9月21日開花)は完全には開き切らなかった。

前述の通り、今シーズンは昨シーズンに比べて開花数が非常に少なかった。原因のひとつとして灌水量や灌水頻度が足りなかったことが考えられる。自生地のカナナラでは、雨季の降水量は多い月で200mmに達する。したがって、バオブブを植栽しているエリアの面積(約12m<sup>2</sup>)には、1か月に約2,400Lの雨が降る計算になるが、当園大温室の環境では多すぎる水量なため、例年、1か月に約1,600～2,000Lを灌水している(8月～9月中旬、週2回で約200L/回)。しかし、2022年は週1の灌水の日が何度かあったため、例年の7割程度の灌水量になってしまった。

それに加えて、昨シーズンに開花数が急増したことにより、予想以上に株の体力が消耗していたことが影響して、開花数が急減したのではないかと考えられる。

## 結実について

今シーズンは別株に由来するオーストラリアバオブブの花粉を入手できなかったため、人工授粉を試みなかった。

## 秋以降の状況と今後

10月下旬から葉が黄色くなりはじめ、より落葉が進んだ11月上旬を最後に、灌水を止めた。その後は昨シーズンと同様、葉をふるい落とす事とハダニの防除の目的で葉に水をかけた。

今後、1回の灌水量や灌水頻度を増やして、1か月に最低でも2,000Lの灌水量を確保できるようにして、開花数の動向を注視したいと考えている。

## 引用文献

堀川大輔・泉川康博・濱谷修一. 2020. オーストラリアバオブブ生育記録～定植から2年が経って・開花記録～. 広島市植物公園 栽培記録 41: 21-27.

表 オーストラリアバオブブの開花(2022年)

	開花日	コメント
1輪目	8月12日	出蕾日は7月25日
2輪目	8月13日	
3輪目	9月2日	
4輪目	9月4日	
5輪目	9月14日	
6輪目	9月16日	
7輪目	9月21日	開花が途中で止まり、完全には開き切らなかった。